

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 6

2017 No.753

3 はじめの言葉

4 情報の見方／見極め方と

ことの本質への疑惑

田原文夫

ことの本質は誰もが正しく把握したい(はずだ)。しかし、そのための情報の見方／見極め方で、ことの本質への疑惑が一杯になる。何故なら、様々な情報で溢れかえる情報社会には、本質を覆い隠す情報も蔓延しているからだ。それだけに情報の見方／見極め方という情報の受け手のインテリジェンス能力が必要とされる。それが情報社会の特性でもある。覚悟を持って臨む必要がある。

10 情報社会を考える その81

情報社会作り、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

嫌悪感が募るばかり

政治とカネが問題となるのは、それが政治腐敗の最も典型的な形だとされるからだ。すなわち、カネの力によって、特定な勢力に与する者だけが特別の恩恵を受けるような政治権力的状況が形成される可能性があるからである。ところが、今現在の安倍政権で表面化しているのは、直接的にカネの問題ではない。少なくともこれまでのところ、表立って政治家が不正なカネを受け取ったという形では取沙汰されていない。しかし、首相周辺の個人的なつながりがある特定な人々が、特別な恩恵をあずかっているという疑惑が出ている。彼らの間にカネの授受があった上でのことであれば、もちろんそれが贈収賄罪の問われる範疇の問題だが、権力者と個人的なつながりがある人々だということ、単なるカネの授受以上に気色の悪いものがある。

12 オープンガバメント OG 42

情報社会をすすめる

その76

水田 浩

1990年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995年代にはインターネットが世界中で使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、より良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようになっていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高いビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中で起こっていた。そこで、CALSの一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクルで、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つのCALSという概念(言葉)で1995年から2005年に掛けて世界中が一つになって運動を起こすようになった。

1 9 連載 アーキテクチャ論 (74)

IT4ITにおけるITマネジメントサービスの発展 山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

前回説明した、IT4IT[1,2,3]の活用イメージでは、IT4IT 参照モデルを用いた Current Mode of Operation(CMO)の分析に従って現行運用の改善機会を識別することにより、Future Mode of Operation(FMO)として将来運用を明らかにすることができる。本稿では、このようなIT4ITにおけるITサービスマネジメントモデルの進化プロセスを紹介するとともに、進事例を説明する。

2 6 連載 日本再生と人材育成

人口減少／少子高齢化時代への挑戦 その2 9

人材フル発揮のための就職/転職のステップとポイント Dr.ベスト

日本の人口減少/少子高齢化時代の原点にもどると、この先一人ひとは極めて貴重な人材(人財)であり、その意思と能力をいかにフル発揮できる仕事に就き、その活動を通して最大限の成果が得られるような働く仕組みを準備・提供していくのが喫緊の課題であるといえよう。人口減少/少子高齢化時代において最も重要なことは、数少ない人材のほとんど全員が自分の意思と能力にマッチした仕事に就き、その意思と能力がフルに発揮されるような状態が実現できることである。

3 3 IT新時代とパラダイム・シフト

第91回 3年後に迫った東京オリンピックに

間に合うか日本のICT対策 根本忠明

東京オリンピックまで後3年に迫った昨今、日本のICT基盤の不備が問題視されている。増大する訪日観光客からは、公衆WI-FI、銀行ATM、デビットカード等が使えないといった不満の声が高まっている。サイバー攻撃対策も危惧されている。ロンドンオリンピックは「ソーシャル五輪」で注目を集めた。東京オリンピックは「ICTによる最高のおもてなし」を目指しているが、2020年の開催までICTの基盤整備が間に合うかを見てみたい。

3 6 続インテリジェンスへのいざない 89

踊る漏洩／告発情報

着実に進展する情報社会 今井 武

一般マスコミ／インターネットを問わず、漏洩情報ではないかと思える情報が踊っている。取材能力が上がったということだろうか、それとも内部告発も含めて漏洩行為がより活発化しているということだろうか。いずれにせよ、情報は拡販されるものである。その意味でも、情報社会は着実に進展している。

3 9 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまチヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介致します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,810円+税 送料(〒300)
A5版 289頁

石井 義典 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 EUCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータウェアハウスの相違点	第八章 データウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータウェアハウス	第九章 データウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとホスト・リレーショナル・モデル	第十章 データウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータウェアハウス	
第六章 データウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A6版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意思決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A6版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシナリト研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM/KEYの監視と検束記
第二章 aism情報セキュリティマシナリト研究会の歩み	第十二章 メールが漏れない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの構築
第四章 世界を駆けめぐったOodeRedフォーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2016年度の事業計画	第十八章 せせりや「せせりや」作成にあたってのメモ
第九章 情報セキュリティ研究の歩みと課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A6版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成長野原
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A6版 212頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方程式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,740円+税 送料(〒300)
A5版 220頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れ文も企業体質
■ ニュースリリースは東方向送信	■ 守るも求めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例集」
■ 記事の材料(ネタ)と発掘のテクニック	<付> 監修とうまく付き合う十六の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,840円+税 送料(〒300)
A5版 260頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍軍務所移転と新たな組み
第五章 FJO, IBM競争	第十五章 開発フル稼働と1/10タツタ
第六章 日本プロジェクトチームの歩み	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番直前日曜
第八章 米軍チーム立ち上がりの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大昔な話、英蘭二国間コミュニケーション	第十九章 稼働その一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、闘となる三人組	第二十章 稼働その二 安定稼働と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp